

【国際交流留学センター】

本センターでは、受け入れ留学生への日本語日本文化教育とともに、国際的視野を持った教員の養成に資することを目的とした教員養成大学ならではの国際交流事業を展開しています。2021 年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、オンラインでのプログラム提供としたり、当初計画から内容を一部変更したりすることを余儀なくされましたが、限られた人的・物的資源を最大限に活用して事業を展開することができました。活動の詳細は、以下の通りです。

（1）受け入れ留学生教育の運営

2021 年度はコロナ感染拡大の影響で受け入れ留学生数は制限されましたが、さまざまな国から前期は 25 名、後期は 33 名の留学生を受け入れました。

在籍留学生数、内訳は以下のとおりです。

前 期	学部正規生 3 名、大学院正規生 11 名、学部研究生 5 名、日本語日本文化研修留学生 4 名、交換留学生 2 名
後 期	学部正規生 3 名、大学院正規生 10 名、学部研究生 7 名、大学院研究生 1 名、日本語日本文化研修留学生 3 名、交換留学生 5 名、教員研修留学生 4 名

受け入れ留学生のうち日本語日本文化研修留学生は世界各国で日本語日本文化を学んでいる大学生を対象とした文部科学省奨学金プログラム参加者です。前期 4 名、後期 3 名が渡日後 2 週間の自主隔離期間を経て本学で学びました。また本学が国際交流協定を結んでいる大学からは、前期は西安外国語大学から 2 名、後期はハイデルベルク大学から 1 名、西安外国語大学から 4 名を交換留学生として受け入れました。交換留学生はコロナ感染拡大防止のための水際対策の影響で渡日が叶いみせんでしたが、本国からオンラインでプログラムに参加しました。

授業だけでなく、以下のような文化プログラムを通して日本語・日本文化の理解を深めました。



本学自然環境教育センター奈良実習園での田植え体験（令和 3 年 6 月 9 日実施）



奈良団扇づくり体験（令和 3 年 7 月 28 日実施）



日本語・日本文化研修留学生及び交換留学生オンライン最終発表会（令和 3 年 7 月 30 日～8 月 20 日実施）



日本語・日本文化研修留学生及び交換留学生の記念品授与式
(令和3年8月2日開催)



灯ろうづくりワークショップ(令和4年3月3日実施、協力;技術教育専修学生(担当教員:世良啓太先生))



同期型オンラインバスツアー「石見銀山と石見神楽」(令和4年1月14日実施)



同期型オンライン和菓子作り体験(令和4年2月15日実施、大阪大学日本語日本文化教育センター教育関係共同利用拠点事業)

2022年度4月からは、文部科学省の奨学金を得て日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員(教員研修留学生)4名が、大阪日本語教育センター(JASSO)での6か月の日本語集中研修を終えて本学での専門教育研修を開始します。来年度は、例年のようにより多くの留学生を受け入れ、グローバルな視点での学び合いがキャンパス内でさらに活発に行われることを期待しています。

なお、留学生が少しでも安心して留学生活を送れるように、本学では新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府や大学の対応、生活支援のための情報を英語で提供する

「留学生支援サイト」(https://www.nara-edu.ac.jp/international/info_ryugakuNara.html)を開設し、留学生への支援の充実に努めています。

(2) 学内における異文化交流の活性化

① 留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学の留学生対象科目の一部は日本人学生も履修可能となっており、今年度も留学生とともに日本語や日本文化について学びました。例えば、留学生向け科目「比較文化論」ではゲストスピーカーによる「ハラルとは何か」と題した同期型オンラインの講義を全学に公開しました(令和3年6月23日実施)。また「日本語コミュニケーション」では「教育課程特講(担当教員:橋崎頼子先生)」と合同授業を行い、それぞれの文化に対するステレオタイプや偏見についてデ

イスカッションしました（令和3年11月9日実施）。今後も留学生と日本の学生とが共に学び合える授業を提供していきます。

②学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会える機会を多く提供しています。例えば気軽にしゃべりする場を提供する「なつきょん's café」（定期的に開催）、「留学生と友達になろうキャンペーン」（年1回開催）は留学生と日本人学生の有志が中心となって実施されています。今年度はすべてオンラインでの交流となりましたが、留学生による国紹介ポスターの掲示および同期型オンラインのクイズ大会を開催するなど、対面実施が難しい中でも工夫して国際交流の活性化に努めました。また、現在、約30名の学生が留学生サポーターとして活動しています。



留学生と友達になろうキャンペーン「クイズ大会」（令和3年7月14日開催）



なつきょん's café「年賀状をつくろう」（同期型オンライン 令和3年12月16日、12月21日対面で実施）

さらに、コロナ禍で自由な交流が制限される中で、学生たちの国際交流を後退させないように、海外の協定校等の大学生とオンラインでつながる機会も提供しています。セントラルミシガン大学で日本語を学ぶ留学生有志と本学学生をマッチングし、日本語・英語の交換レッスンをする「言語交換プログラム」もその一つです。さらに今年度は独立行政法人国際交流基金が受託しているグリフィス大学研修の一環として本学学生がグリフィス大学で日本語を履修している学部生とオンラインで交流しました。これらオンラインでつながる試みは、今後の国際交流の新しい選択肢の一つと言えるでしょう。

また、令和4年1月26日には本センター主催「教師のための多様性理解シリーズ（1）ミニレクチャー“イスラームについて知ろう 日本の学校教育におけるムスリム”」をオンライン開催し、本学学生、学内外の学校教育関係者38名が参加しました。

（3）派遣留学の奨励と支援

日本の学生の海外留学が促進される中、新型コロナウイルス感染拡大のために2021年秋からの派遣留学を中断していましたが、2022年1月より、国際交流協定校のアメリカ・セントラルミシガン大学へ1名、リヨン第三大学へ1名が渡り、留学生生活を始めています。

なお派遣留学生に対しては、本学の支援奨学金制度に加えて、2021年度は「海外留学支援制度短期研修・研究型（協定派遣）」が採択され、派遣留学支援となっています。

本センターでは、今後も学生支援課と連携して、派遣留学の推進に努めるとともに、協定校が提供するオンラインプログラムに関する情報収集や新たな派遣留学の可能性の模索と促進に取り組んでいきたいと思っています。

(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

本学では、留学生と日本の学生とが共に、附属校園でさまざまな実践を行っています。例年は、交換留学生、大学院留学生等が本学の附属幼稚園、小学校、中学校での交流を通して多くの学びを得ていますが、今年度はそれらのほとんどが中止となりました。1月には、日本語日本文化研修留学生と交換留学生が附属小学校5年生の「外国語」の授業でハイブリッド形式での交流を行う予定でしたが、コロナ感染拡大の影響で計画を変更し、留学生が制作した自国紹介動画を通じたの交流となりました。ぜひ今後の交流につなげていきたいと思ひます。

(5) その他

本学の留学生受け入れに関する広報活動として、令和3年10月15日にはリヨン第3大学主催「first virtual Partners' Fair 2021」にオンラインで参加し、日本への留学希望者7名に対して本学の留学プログラムについて広報を行いました。

その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ(<https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/index.html>)で紹介しています。また、元本学留学生の近況報告や派遣留学生の留学体験記や帰国報告会資料も随時公開していますので、ご覧になってください。

以上のように、本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担い、留学生に対して日本語日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を学内外へ発信しています。次年度も引き続き、留学生プログラムの充実に努めるとともに、日本の学生と留学生との共修や、附属学校園等との連携につとめていきます。そして、留学生教育と連動させながら、グローバルな視点に立った教員養成に資する活動を行っていく所存です。